

## 概要

心臓には自ら電気信号を発生し、電気信号が心臓内を伝わることで心臓の筋肉を動かす役割があります。その電気信号の流れを記録した心電図波形を調べる検査です。

## 検査方法

手首、足首、胸部に電極を付けて心電図波形を記録します。

## 検査で分かること

主に2種類の異常がないかを調べています。

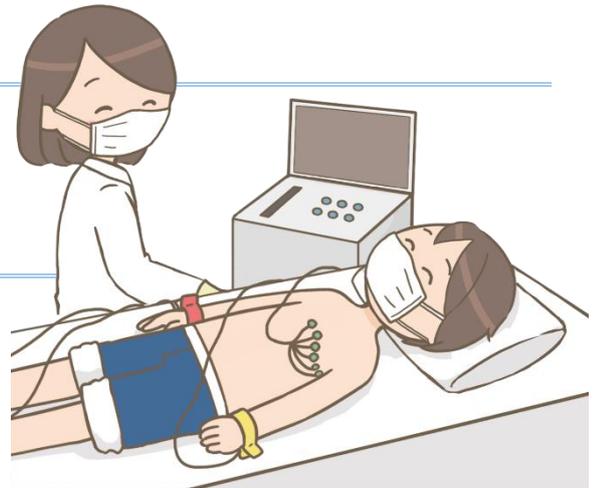
### 1. 脈の乱れがないか（不整脈）

- ① 心拍数が速い（頻脈）、遅い（徐脈）
- ② リズムが不規則（期外収縮、心房細動など）

### 2. 心臓の筋肉に異常がないか

- ① 心臓の筋肉に酸素が十分届かない（心筋梗塞や狭心症など）
- ② 心臓の筋肉が厚くなる・心臓の各部屋が大きくなる（心筋症、弁膜症、先天性疾患など）

※心臓の形を直接見ることはできないため、これらの疾患は心臓エコー検査などの画像検査が必要です。



## 注意事項

- ・素肌に電極を付けるため、ストッキングやタイツは脱いでいただきます。

## 所要時間

約5～10分程度

## よくある質問

Q：なぜたくさんの電極をつけるのですか？

A：心臓の電気信号の流れを様々な方向からとらえるためにたくさんの電極をつけています。電極の装着場所は決められており、心臓のどの部位にどの程度の異常があるのかを推察することができます。

Q：電気で感電しませんか？痛いのですか？

A：心臓の電気信号を機器が感知して記録するだけであり、機器から体に電気を流すことはありません。感電の心配や痛みはありません。

Q：力が入っているといけないのですか？

A：力が入ると筋肉の動きが心電図波形に入ってしまう、記録の妨げになります。そのため、なるべく力を抜いてリラックスしていただきますようお願いしています。基本的にベッドに仰向けに寝ていただき、手足を伸ばした状態で検査をしています。が、困難な場合は担当技師にお伝えください。